

【ゆんたんざ・泰期（たいき）講座】（2012年）

『中国との交流と地域振興に向けて』

泰期は、ゆんたんざ宇座の人である。琉球の三山時代の1372年に兄の琉球国中山王・察度（さつと）の命を受けて、中国・明国に琉球初の朝貢使節として渡海し、琉球立国の道を開くのに偉大な貢献をした。

今読谷は、泰期の立国の使命感や勇気、優れた統率力、国際性を讃え「商売の神様」と位置づけ、「泰期像モニュメントの」建立や「泰期まつり」が開催されている。だが泰期は、対外貿易・経済・商業的な面だけでなく、文化的な面でも琉球と中国、アジア、世界をつなぐ最初の役割を果たした人物でもある。そのひとつが中国伝来の航海安全の守護神・媽祖（天妃・天后・ブザードー）との出会いと導入である。

今日媽祖世界は、沖縄・中国（香港・マカオ）・台湾・日本・韓国・欧米などの国内と華僑世界を結ぶネットワークを形成している。本講座は、これまで語られることのなかった泰期の今日的な役割と、読谷はいかなる地域、村なのか、大胆な発想と視座で問い、これからの東アジアにおける、読谷村の対外交流と地域振興を考える内容である。

また本講座は、読谷と全世界をつなぎ初めて耳にする歴史、文化的な史実も多く、ためになり役に立つ講座である。

日 時：2012年1月18日～2月15日（毎週水曜日）18：30～20：00
2月26日（日）10：00～17：00（フィールドワーク）

回 数：全6回（内容は別紙） 受講料：無 料

主 催：読谷村商工会（中国交流調査事業委員会）

講 師：又 吉 盛 清（沖縄大学客員教授）

場 所：読谷村文化センター（講座室A）、他

申込締切日：2012年1月16日（月）午後5時（別紙申込書にて申し込むこと）



【学 習 内 容】(2012年)

| | 月日 | 内 容 | 講 師 | 場 所 |
|--------|------------------|--|----------------------|--|
| 1 回 | 1月 18日 (水) | 「泰期と読谷を考える」 泰期の里・読谷山を「大琉球」の始発を切った地として位置づけ、中国との交流の歴史、文化、経済等の振興と役割を考察する。 | 沖縄大学 客員教授 又吉盛清 | 読谷村 文化センター（講座 室A） TEL 982-9292 |
| 2 回 | 25日 (水) | 「泰期の進貢船（唐渡船）と中国航路」 ①進貢船の中国からの無償供与と出航までの準備過程 ②泰期進貢船と航海安全の守護神になった媽祖（天妃・天后等）の考察 | | |
| 3 回 | 2月 1日 (水) | 「泰期と琉球国における媽祖世界」 ①媽祖の琉球伝来と那覇の媽祖廟（久米村の上と下の天妃宮）久米島の（天后宮）の考察 ②「読谷山天妃宮」の所在について | 〃 | 読谷村 商工会館 TEL 956-4011 |
| 4 回 | 8日 (水) | 「泰期を全世界に拡大する媽祖廟の絆」 中国福建省湄州、台湾、香港、アモイ、日本等各国の有名な媽祖廟を紹介し読谷の国際的な連携と対外交流の可能性を考察する。 | 〃 | 読谷村 文化センター（講座 室A） |
| 5 回 | 15日 (水) | 「泰期と行く沖縄の中国史跡と媽祖廟」 泰期と関わる読谷・浦添・那覇の史跡をフィールドワークに向けて学習し、読谷の中国、台湾、東アジアとの深いつながりを確認する。 | | |
| 6 回 | 26日 (日) | これまでの学習を受けてフィールドワークの実施（現地探訪） 読谷史跡（宇座・泰期、長浜唐船小堀、大湾・渡具知造船所等） 浦添史跡（牧港港、牧港在察度王の「おもろの碑」等） 那覇史跡（那覇港、天使館、天妃宮、孔子廟等） | 〃 | 集合場所： 読谷村役場職員駐車場 |

.....(切取線).....

ゆんたんざ・泰期講座受講申込書

読谷村商工会御中（ファクス982-8273、電話956-4011）

ゆんたんざ・泰期講座に下記のとおり申し込みます。

住所 _____ 氏名 _____ 電話 _____

★ 受講については、原則として全講座受講とするが、受講困難な方は単講座でも可能とする。 その場合、下記にて受講講座回に○印をすること。

（ 1 回 、 2 回 、 3 回 、 4 回 、 5 回 、 6 回 ）